

設楽ダム建設事業環境影響評価

第4回技術検討委員会 議事概要

議事概要

(動物・植物(陸域)の重要な種)

委員：植物の生息状況については、時間の経過により変化(遷移)していることを考慮して、古いデータは参考程度にすることが望ましい。

事務局：植物については、平成13年度以降に現地で確認できた種を予測評価の対象としている。

委員：「影響がある」との記載は、「影響が大きい」ことが分かるような記載とする方がよい。

委員：予測・評価にあたっては、調査範囲内の全ての種について行うことは現実的ではないが、貴重種(重要種)に偏ったものとせず、生息環境を踏まえた視点を持つこと。

委員：予測・評価の影響範囲については、定量的な知見はないが、幅50mにとらわれることなく、地形や植生等を考慮してモニタリング地点を設定し、事業実施期間中及び完了後も調査を行い、影響の把握に努めること。

委員：保全措置を必要とする種については、生息している環境、場所の特性を考慮して、必要な対策を検討すること。

委員：確認個体数が少ない種の保全措置としては、移植とともに標本の採取・保存を検討すること。

委員：移植にあたっては、移植先に同種のもものが生息しているのであれば、別の個体群との交流と攪乱が起きる可能性があることを認識して、対処することが必要。

委員：移植が必要と考えられる種について、現時点で実施可能なものから実験を行うなど、工事着手までの時間を利用して保全措置の有効性を検証すること。

(生態系・上位性(陸域))

委員：クマタカに関する調査は相当量実施されており、生息分布は詳細に把握できている。ただし、個体保護の観点から特に繁殖に深い関わりを持つコアエリア等についての表示は今回の資料程度とし、詳細なデータは記載しないこと。

委員：影響が小さいとの予測結果を分かりやすく説明するためにも、他ダムでの生息事例を公開すること。

委員：今後も影響をできるだけ小さくするため改変面積の縮小を検討するとともに、事業実施期間中も新たな観測機器を追加するなど、できる限り新しい手法を取り入れるなどしてモニタリング調査を継続し、データを蓄積していくこと。

事務局：今後も、調査精度の向上に努める。

委員：採餌データの記載にあたっては、表現を統一するなど、分かりやすく整理すること。

事務局：記載方法については、再考する。

(生態系・典型性(陸域))

委員：現時点における典型性のまとめ方は、スギ・ヒノキの人工林に広葉樹林等がパッチ状に入っているとの評価で問題ない。

委員：典型性で扱う種については、確認個体数の多さや、場の利用頻度を考慮して、記載すること。

委員：典型性を評価する範囲について、数値を分かりやすく整理すること。

事務局：それぞれの数値のつながりが分かりやすいように、整理する。

(資料公表の取り扱い)

- ・"資料 - 1 委員会関係資料"、"資料 - 2 前回議事概要"、"資料 - 3 説明資料"は、公表扱いとする。
- ・設楽ダム動植物確認データ集(重要種の確認位置図等)は、重要種保護の観点から非公表とする。